

## 案件概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	モンゴル
2. 案件名	利用者目線バス運営ノウハウと AI・IoT 技術提供によるバス事業改善プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	<p>2000 年代初頭から慢性的な交通渋滞が発生している。ウランバートル市は、問題の解決に向け、効率的なバス運営を通じたバス利用者増加のための方策を模索しているものの、具体的な対策には至っていない。</p> <p>現状としては、サービス向上のために有益な交通データや顧客ニーズの IT を用いた分析の必要性は認識されてはいるものの、技術・ノウハウ不足により行えていない。特に、関係者の間では運賃徴収システムの利活用に関する問題があるとの認識があり、顧客の利用データが適切に収集できていないことに加え、運賃徴収が適切に行われていないためにバス事業者の経営の改善につながらず、結果として利用者サービスの向上のための事業改善が図れないという状況になっている。</p> <p>このような背景から、本事業では、ウランバートル市ならびに関係するバス事業者、IT 企業と協力し、運賃徴収システムの課題解決に向けた提案を行う。また、同システムの改善を通じて利用者データの分析・活用について理解した人材を育成するとともに、IT を活用した利用者サービスの向上について提案を行う。</p>
4. プロジェクト目標	確実な運賃回収のために、運賃徴収システムを適切に活用する体制が構築される。
5. 対象地域	ウランバートル市
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	ウランバートル市 (公共交通サービス局、IT 局)、ウランバートル市内のバス事業者
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p>1. モンゴル側 ワーキンググループメンバーにより現行の運賃徴収システムの課題が正確に把握される。</p> <p>1-1: 調査団 (日本側メンバー) が交通網、IT 導入状況に対するベースライン調査を行う (現地バス事業者・行政・IT 関係の現状を把握する。)</p> <p>1-2: バス事業者および利用者を対象としたフィールド調査の実践 (バス事業者や IT 会社が利用者目線になり試乗やカード利用を行う/住民へのヒアリング調査の実施)</p> <p>1-3: 現行運賃徴収システムの課題を整理するための意見交換/ワークショップの開催</p> <p>1-4: 利用者目線のバス運営ノウハウに関するワークショップの開催</p> <p>2. ワーキンググループメンバーにより、運賃徴収システム運用から取得できるデータを理解し、バス事業改善への活用方法が把握される。</p> <p>2-1: ワーキンググループメンバー (モンゴル側) による既存取得データの分析手法を試験するワークショップの開催</p> <p>2-2: カウンターパートが本邦研修にて日本のバス運営、IT 活用状況を視察する。</p> <p>2-3: IT 専門家 (日本側) による正しく取得されたデータの活用事例を示すプレゼンの開催</p> <p>2-4: 小規模な一定路線・エリアにて運賃を確実に得るための実証試験の実施</p> <p>2-5: 上記 2-4 の結果のレビューと今後の対応策の検討</p>
8. 実施期間	2023 年 1 月から 2025 年 1 月 (2 年間)
9. 事業費概算額	9,996 千円
10. 現地カウンターパート	ウランバートル市公共交通局及び IT 局
II. 実施団体の概要	
1. 提案地方公共団体名/団体名	一般社団法人交通環境まちづくりセンター
2. 活動内容	移動や社会経済活動に伴うエネルギーの効率的な利用と環境負荷の低減を促進し、地球環境の保全と地域づくり、まちづくりの活性化に貢献することを目的とする。